

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	杉山 凜夏	学年(渡航時)	4年
派遣先大学	ハインリッヒ・ハイネ大学		
国・地域	ドイツ・デュッセルドルフ		
派遣期間	2024年4月～2025年1月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Business and European Integration	the specific role of business benefiting from, and thus advancing, European integration
Ethics, Bias and Natural Language Processing	the concept of bias in language technology, and the different types of biases such as racial, gender, underlying structure of some of the technologies
Media Fandom in the Digital Age	an introduction to the study of media fandom. In addition to tracing the history of fan studies, we will analyse different fan cultures and explore several theoretical concepts that are closely tied to the study of fandom
DFW4202 Deutsch Intensivkurs 2 (Kursniveau A1)	German language course
2 学期目	
履修科目	授業内容
Language and Health	explores the intersection between language and health
Mistakes: Asian and European Perspectives -	do the surveys through discussions to think why we make mistakes regarding to Asian and European philosopher
Philosophie der Gegenwart	behandelt wichtige Entwicklungen der Philosophie des 19., 20. und 21
DFW4202 Deutsch Intensivkurs 2 (Kursniveau A2)	German language course

留学レポート(1,500字以上)

哲学とジェンダーを学ぶこと、ヨーロッパおよびドイツの文化を学ぶことをテーマに、一年間ドイツに留学した。まず授業について、ドイツ人の勤勉性と日本とは異なる授業形式に最初圧倒されたが、授業に追い付くために努力できたのは有意義だった。初めは学ぶつもりがなかったドイツ語も生活のために学び始め、新たな知見を得ることもできた。デュッセルドルフには日本の企業が多く、日本人街もある為、海外に在住するのが初めての私でも比較的住みやすい街だった。その他他の留学先ではあまりないだろう面白い出会いも多かった。もちろんヨーロッパ全体およびドイツ特有の文化も現地で直接体験できた。以下、授業についてと、日常生活について、印象に残った点を具体的に記していく。

まず、授業について記す。日本の大学では聴講するだけのレクチャー形式が多いが、ハインリッヒ・ハイネ・大学で私が受けた授業は少人数でディスカッション形式ものが多かった。留学当初は母国語ではない英語での授業

について行くことすら難しく、毎回授業で意見を求められたときも、話題が難しく意見が出なかったり、意見が出たとしても勇気が出ず言えなかったりした。しかし、皆授業のために毎回時間をかけて予習していることを知り、私も追いつけるように努力した。時間がかかるしテーマも難しく大変だったが、毎週インプットとアウトプットを繰り返すことで知識が身に付きやすく、とても有意義な授業だった。また、クラスのディスカッションで勇気を出して発言すると、私の流暢ではない英語もみな熱心に聞いてくれた。ここでは誰も正解など求めておらず、考えることが大切なのだと改めて思い知り、その後は私もより発言できるように努力した。

また、英語開講の授業の他に、私は週に3回、1日2コマ(90分×2)あるドイツ語の授業も受け、ドイツ語取得にも力を入れた。初めはドイツ語に力を入れて学習するつもりはなかった。しかし、デュッセルドルフでは意外とドイツ語で話しかけられることが多く、また大学にドイツ人と日本人のコミュニティがあり、ドイツ語を話せるようになった方が生活しやすい上、楽しくなるだろうと考え、授業を取ることにした。私が取っていたコースはコマ数も多くスピードも速いのでかなり大変だった。短い時間で言語習得をしたい人にはお勧めだが、他にも言語コースはたくさんあるので、当大学に来る人には自分に合ったコースを見つけてほしい。ドイツ語は簡単にできるようになるものではなく、1年勉強した今でも話したり文を作ったりするのは難しい。しかし、読んだり聞いたりすることが少しはできるようになり、かなり生活しやすくなった。ドイツ人のパートナーもできたので、これからも勉強を続けていくつもりだ。

次に、日常生活について記していく。デュッセルドルフには日本人が多く、日本を好きなドイツ人も多く住んでいるので、かなり親日で、日本食に困ることもなく過ごすことができた。大学にも街の中心部にもドイツ人と日本人のコミュニティがあり、ドイツ人の友達を作ったり、ドイツ語を練習したりしやすかったのはよかった。だが、日本語を話せる人が多いので、甘えて日本語ばかり話してしまったのは反省している。ただ、日本食の店が多かったこともあり私は抹茶カフェで半年間アルバイトをした。接客は英語とドイツ語を交えながら行った。難しくても伝えなければならぬので、強制的に英語やドイツ語を使わなければならない環境となってよかった。また、ドイツのワークライフバランスがしっかりしていることを体感した。

さらに、ドイツ人の素敵なライフスタイルをかなり知ることができた。まず、ドイツ人は自然が好きで、無駄使いをしない。というのも、日本ではお金を使って娯楽施設で遊ぶことが多いが、ドイツでは娯楽施設があまりないので、友達と遊ぶと言えば BBQ やハイキング、家で一緒にディナーを作るなどである。自然に親しみ、お金を使わずとも友達と集まるだけで、楽しめることを教えてもらった。次に、ドイツにはスタムティッシュという文化がある。「常連のテーブル」という意味で、月に1度、コミュニティのリーダーが決まったお店を予約して、自由参加でコミュニティ内外のメンバーが集まる。日本の飲み会のように人数や時間を細かく決めて予約するものではないので、気軽に参加でき、その場でできた友達もたくさんいる。そして食文化について、私にとってドイツの食文化は割とあったと思う。ヨーロッパのスーパーでは乳製品やパンやパスタが安く買えるため、自炊をすれば節約できるし、美味しいものが作れる。ドイツ人の友達やパートナーが簡単にできるドイツ料理をたくさん教えてくれたのでありがたかった。

最後に、ここには書ききれないほどこの留学で得たものは大きかった。勉強したことも重要だが、何より印象に残っているのはやはりドイツ人たちとの思い出である。文化圏の違う友達を作るのは難しい。私も実際に仲良くなれたと思う人は数少ないし時間がかかった。しかし、大切なのは気張りすぎずストレスを抱え込みすぎないことだと思う。合わないものに無理やり合わせる必要はない。自分の居心地のいい場所を見つけていくのが良いと考える。

ビザ取得や住民登録などの制度的なことに質問がある留学予定の人は、個人的に連絡してほしい。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



BBQの様子



ドイツ人の友達とハイキングに行った時
(Freiburg)



ハロウィーンの時のスタムティッシュ



ドイツ人の友達とクリスマスマーケットに
行った時



パートナーと豪華なドイツ流朝食を作った時



ドイツの伝統料理(München)